

2023 年度 前期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

## 1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設された。本会計大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本会計大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。このような理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として本会計大学院のウェブサイト<sup>1</sup>で公開している。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この報告書の公開によって、本会計大学院の修了生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート実施報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見出し、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。2020年1月頃から続いたCOVID-19が2023年5月以降に5類感染症に移行したことに伴い、今学期では多くの科目で対面形式での実施が再開された。状況の変化には柔軟に対応しながらも、本アンケートの結果を踏まえて、今後の会計大学院の授業がさらに良いものに改善されていくことを願っている。

2020年度からはビジネスアカウンティングコースを設置し、カリキュラムの体系も見直している。このような改善を継続し、その効果を確認するため、アンケートの結果を活かしたいと考えている。

2023年10月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

---

<sup>1</sup> <http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>

## 2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートの種類と配布期間・対象者は以下に示す通りである。

「会計大学院の授業に関するアンケート」(資料 1)

- ・前期講義実施期間：2023年7月8日(土)～2023年7月28日(金)
- ・連続講義実施期間：2023年8月7日(月)～2023年9月8日(金)

上記期間中に、メーリングリストや担当教員からのアナウンスを通じて Google Form の URL を配布。

「会計大学院の授業に関するアンケート」は履修者が5名以上のプロジェクト調査・研究以外全ての科目を対象とし、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。アンケートの回答は無記名とし、1学生につき各科目において1回限りとした。

本報告書では、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書ではアンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。

「会計大学院の授業に関するアンケート」における科目毎のアンケートの集計結果と自由記入欄の記載内容は、担当教員に原文を直接報告している。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することと期待している。

### 3. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

#### 3.1. アンケートの実施状況

「会計大学院の授業に関するアンケート」は、前述の通り、履修者が5名以上のプロジェクト調査・研究以外全ての開講科目である29科目について実施された。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると表1のようになる。今回のアンケートでは、述べ履修者数576名に対して265名から回答を得た。アンケートの回答率は46.0%である。他専攻、他部局の動向を考慮すると、回答率は一定の水準を確保しているものと考えられる。

授業科目名	履修者数	回答数	回答率
財務会計1	41	24	58.5%
財務会計3	14	4	28.6%
簿記1	27	21	77.8%
簿記3	23	18	78.3%
公会計2	16	4	25.0%
I F R S 2	6	5	83.3%
管理会計2	16	7	43.8%
管理会計3	18	7	38.9%
原価計算1	35	16	45.7%
監査1	25	20	80.0%
監査3	23	9	39.1%
監査計画の編成法2	30	8	26.7%
事例研究（監査制度）	28	7	25.0%
マクロ経済学	6	6	100.0%
経営管理	21	3	14.3%
経営戦略	11	11	100.0%
コーポレートファイナンス 2	7	1	14.3%
情報セキュリティ	5	0	0.0%
統計学	36	8	22.2%
計量経済分析1	6	2	33.3%
金融行政I	38	13	34.2%
企業法2	31	12	38.7%
法人税法1	14	6	42.9%
所得税法	9	8	88.9%
企業開示制度と実務	27	10	37.0%
会計職業倫理	30	12	40.0%
ビジネス倫理	13	4	30.8%
ビジネス・コミュニケーション1	12	11	91.7%
ビジネス・コミュニケーション2	8	8	100.0%
合計	576	265	46.0%

表1：アンケート実施科目と回収数

#### 3.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、評価が好ましい回答ほど値が大きくなるよう設定されているため（設問1属性、設問17入学前、設問18受講方法を除く）、この数値に基づく回答の平均値、

中央値、最頻値の算出を行った。あわせて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、具体的なアンケートの内容については資料1を参照されたい。

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格	入学前	受講方法
6	88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	106	245	3	5	6	112	167	204	200	182	205	194	198	141	176	88	30	139
4	8	18	1	2	7	114	71	39	40	56	42	45	42	46	56	-	122	80
3	44	1	5	11	12	27	20	13	18	16	13	19	14	57	24	116	35	45
2	11	0	25	34	37	6	2	4	3	5	2	2	4	10	2	-	65	1
1	8	1	96	116	86	6	5	5	4	6	3	5	7	11	7	61	13	0
0	0	-	135	97	117	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	265	265	265	265	265	265	265	265	265	265	265	265	265	265	265	265	265	265
平均値	4.72	4.91	0.68	0.94	0.96	4.21	4.48	4.63	4.62	4.52	4.68	4.59	4.58	4.12	4.48	3.20	3.34	4.35
中央値	5	5	0	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	4	5
最頻値	5	5	0	1	0	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	4	5
標準偏差	1.34	0.37	0.89	1.01	1.17	0.88	0.82	0.80	0.79	0.87	0.71	0.81	0.87	1.12	0.89	1.49	1.11	0.77

表 2A : アンケートの基本統計量

表 2A を見ると、設問 3 (予習)、設問 4 (復習)、設問 5 (宿題)、設問 16 (資格) 以外の設問では、平均値が概ね 5 であり、中央値や最頻値も 4 以上である。この傾向は、過去数年のアンケート結果と大きな違いはなく、オンライン講義主体から対面講義主体に切り替わった今学期の状況を踏まえても、講義に対する評価は良好であったといえる。

ただし、学生が授業の予習、復習、宿題にかかる時間はあまり多くない状態が何年も続いている。設問 3 (予習)、設問 4 (復習)、設問 5 (宿題) では回答した学生のうちの半数以上が選択肢 0 または 1 であり、科目別での毎回の講義の予習・復習・宿題にかかる時間は、それぞれ 2 時間以下であることがわかる。これは過年度と同様の傾向であり、継続的にこの課題の原因と対処する方法を検討する必要がある。なお、設問 1 (属性) にあるように公認会計士コースの学生が多く、設問 14 (試験対策) からわかるとおりに本学の講義は資格試験等と関連する内容も含むため、学生が別途取り組んでいる試験対策の学習とも重なる部分があることから、一概に学生の学習時間が不足しているとは解釈しにくい。とはいえ、会計大学院が提供する講義内容は試験対策に限らないことから、理解には一定の学習時間が必要と考えられる。

全体として、学生からの各講義に対する評価は高い水準にあるといえるものの、予習・復習・宿題にかかる時間を一定時間確保するように授業設計を工夫する必要があると考えられる。

対面

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格	入学前	受講方法
6	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	55	127	2	4	5	60	81	106	100	89	103	98	98	65	92	42	17	139
4	5	11	1	2	5	60	41	18	20	33	27	24	25	26	27	0	70	0
3	18	1	3	7	8	12	10	8	14	9	5	11	9	33	14	68	12	0
2	9	0	16	18	22	2	2	2	1	3	1	1	0	5	0	0	34	0
1	4	0	62	64	40	5	5	5	4	5	3	5	7	10	6	29	6	0
0	0	0	55	44	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	139	139	139	139	139	139	139	139	139	139	139	139	139	139	139	139	139	139
平均値	4.74	4.91	0.84	1.07	1.10	4.21	4.37	4.57	4.52	4.42	4.63	4.50	4.49	3.94	4.43	3.19	3.42	5.00

オンデマンド

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格	入学前	受講方法
6	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	27	73	1	1	0	30	54	67	65	60	64	61	63	51	52	31	8	0
4	3	6	0	0	1	33	18	8	11	12	10	12	10	12	21	0	34	80
3	19	0	0	3	1	13	8	3	2	5	5	6	3	13	5	28	16	0
2	1	0	2	12	7	3	0	2	2	2	1	1	4	3	1	0	17	0
1	1	1	21	34	27	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	21	5	0
0	0	0	56	30	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80
平均値	4.76	4.88	0.38	0.90	0.60	4.10	4.58	4.75	4.74	4.60	4.71	4.66	4.65	4.36	4.53	3.25	3.29	4.00

リアルタイム

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格	入学前	受講方法
6	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	24	44	0	0	1	22	32	30	34	32	37	34	36	24	31	15	5	0
4	0	1	0	0	1	20	11	13	9	11	5	9	7	8	8	0	17	0
3	7	0	2	1	3	2	2	2	2	2	3	2	2	11	5	20	7	45
2	0	0	6	3	7	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	14	0
1	3	0	13	18	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	2	0
0	0	0	24	23	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45
平均値	4.67	4.98	0.69	0.60	1.13	4.40	4.67	4.62	4.71	4.67	4.76	4.71	4.76	4.20	4.53	3.22	3.20	3.00

表 2B：受講方法ごとの回答結果とその平均値

開講形式がアンケート結果に及ぼす影響があるかどうかを確認するために、表 2B では設問 18 (受講方法) の回答ごとに回答を集計し、その平均値を計算している。平均値を比較すると、対面の方が設問 3~5 の数値がオンデマンドやリアルタイムよりやや高い。これは、予習、復習や宿題にかける時間が対面形式の授業の方がやや多い傾向を示している。その一方で、設問 6~13 の数値は対面よりもオンデマンドやリアルタイムの方がやや高い。これは、難易度、教員準備、プレゼン、教材、評価方法、シラバス、教員評価といった授業評価については、対面よりオンデマンドやリアルタイム形式の方がやや高い傾向を示している。ただし、上記の差はあるとしても小さいため、対面、オンデマンド、リアルタイムのどの授業方法を採用したとしても、評価の傾向は大きく変わらないといえる。開講形式が学習時間や授業評価に及ぼす影響は軽微である。

### 3.3. 各設問間の相関

設問間の相関関係をみるために、表3を作成した。なお、設問1は回答者属性、設問17は入学前の所属、設問18は受講方法であり、相関係数の意味が乏しいため除外している。また、±0.50以上の相関係数については太字（色付き）にしている。設問16の資格については、より難易度の高い資格であるほど高いスコアとなるようになっている。

質問	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格
2 出席	1.00														
3 予習	-0.11	1.00													
4 復習	0.05	<b>0.51</b>	1.00												
5 宿題	0.03	0.28	0.31	1.00											
6 理解	0.23	-0.12	-0.09	-0.02	1.00										
7 難易度	0.18	-0.20	-0.07	0.00	<b>0.64</b>	1.00									
8 教員準備	0.13	-0.19	-0.09	0.04	<b>0.54</b>	<b>0.70</b>	1.00								
9 プレゼン	0.08	-0.13	-0.13	0.05	<b>0.54</b>	<b>0.64</b>	<b>0.80</b>	1.00							
10 教材	0.12	-0.07	-0.03	0.08	<b>0.55</b>	<b>0.68</b>	<b>0.79</b>	<b>0.74</b>	1.00						
11 評価方法	0.10	-0.11	-0.09	0.02	<b>0.56</b>	<b>0.67</b>	<b>0.72</b>	<b>0.69</b>	<b>0.72</b>	1.00					
12 シラバス	0.08	-0.09	-0.04	0.05	<b>0.59</b>	<b>0.68</b>	<b>0.72</b>	<b>0.64</b>	<b>0.73</b>	<b>0.80</b>	1.00				
13 教員評価	0.13	-0.15	-0.08	0.09	<b>0.56</b>	<b>0.74</b>	<b>0.85</b>	<b>0.85</b>	<b>0.84</b>	<b>0.74</b>	<b>0.74</b>	1.00			
14 試験対策	-0.03	-0.06	0.03	-0.02	<b>0.50</b>	<b>0.59</b>	0.44	0.43	0.46	0.47	0.49	0.47	1.00		
15 キャリア	0.07	-0.09	0.00	0.04	<b>0.59</b>	<b>0.73</b>	<b>0.63</b>	<b>0.64</b>	<b>0.61</b>	<b>0.61</b>	<b>0.62</b>	<b>0.66</b>	<b>0.59</b>	1.00	
16 資格	0.03	-0.15	-0.10	-0.03	0.06	-0.01	-0.06	-0.03	-0.04	-0.02	-0.06	-0.05	-0.06	-0.05	1.00

表3：設問間の相関関係

各設問は、概ね、学習時間に関する項目（設問3～5）、授業評価に関する項目（設問6～13）、学生の将来につながる授業かどうかに関する項目（設問14, 15）に分けることができる。

まず、学生の学習時間に関する項目である予習（設問3）、復習（設問4）、宿題（設問5）に注目する。予習（設問3）と復習（設問4）の間では比較的高い正の相関が見られ、予習をよく行う学生は復習もよく行うことを示している。なお、学習時間（設問3～5）と授業評価（設問6～13）との相関は全体的に低い。そのため、学習時間が短いことで難易度、理解水準、将来に対する有用性が低下しているような傾向は見られない。

次に、授業評価に関連した、理解（設問6）、授業の難易度（設問7）、教員の準備（設問8）、プレゼン（設問9）、教材（設問10）、評価方法（設問11）、シラバス（設問12）、教員評価（設問13）に着目する。これらは、それぞれ互いに高い正の相関関係がある。適切な難易度設計や評価方法、シラバスに始まる十分な準備やプレゼン・教材の設定、高い教員評価は、それぞれが密接に関係し、相乗的な効果を持つものと理解できる。

続いて、試験対策（設問14）とキャリア（設問15）を通じた将来の進路に関する有用性という特徴に着目する。全体として、試験対策（設問14）よりもキャリア（設問15）の方が、授業評価に関する回答（設問7～13）との関係が強い。本学では、学術研究の動向や会計実務に基づく知識、倫理

や英語教育など、会計士試験と直結しなくとも長期的な視点で学生の将来に有用となる講義を開講している。将来のキャリアに役立つ授業であるほど授業評価も高いことから、そのような内容の重要性が高まっていることが読み取れる。最後に資格（設問 16）については、強い相関は観察されない。表 2A より、授業評価は極めて高いことから、入学時の習熟度にかかわらず、理解度も評価も高いことが示されており、様々なコースや習熟度の学生に応じた授業を提供できていることが示唆されている。

これらの傾向はおおむね、過去と同様である。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院 WEB サイトを参照されたい

(<http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>)。

### 3.5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、考慮すべき意見については改善につなげるよう依頼している。

また、担当科目の授業アンケートの結果に対するリプライを各教員に依頼し、その結果をまとめて学生に開示している。授業アンケートを通じて教員が得たフィードバックを執筆することで、授業アンケートの結果がさらに授業に活かされることを期待している。

## 4. 結び

2023 年度前期における「会計大学院の授業に関するアンケート」の集計結果を踏まえると、本会計大学院の授業は、総合して良好な評価を得たと考えられる。本会計大学院が抱える課題については、例年同様に学生の学習時間の確保が挙げられる。各科目の毎回の講義の学習時間は、多くの学生が予習・復習・宿題のそれぞれに 2 時間以下ずつとなっている。個々の授業の設計は各教員の裁量に委ねるところであるが、学生の学習時間がきちんと確保されるように継続して工夫する必要があると考える。

最後に、アンケートに真摯に取り組んでいただいた学生各位に感謝を申し上げる。



資料 1 : 2023 年度前期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果を報告書として公表致します。東北大 ID が必要となります。

授業担当者には誰がどのような回答したのかについての情報は一切公表せず、集計された結果のみを伝達します。ただし、自由記述については原則として原文のまま担当者に伝達します。

回答者属性

番号	質問	回答	
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(6)公認会計士コース(2年) (5)公認会計士コース(1年) (4)会計リサーチコース (3)ビジネスアカウンティングコース	(2)経済経営学専攻 (1)経済学部 (0)その他

科目内容について

番号	質問	回答
2	この授業にどのくらい出席しましたか？ (おおよその出席率で回答して下さい。)	(5)90%以上 (4)89-70% (3)69-50% (2)49-20% (1)20%未満
3	この授業の予習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？（セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。)	(5)5 時間以上 (4)4-5 時間 (3)3-4 時間 (2)2-3 時間 (1)1-2 時間 (0)1 時間未満
4	この授業の復習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？（宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。)	(5)5 時間以上 (4)4-5 時間 (3)3-4 時間 (2)2-3 時間 (1)1-2 時間 (0)1 時間未満
5	この授業の宿題に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5)5 時間以上 (4)4-5 時間 (3)3-4 時間 (2)2-3 時間 (1)1-2 時間 (0)1 時間未満
6	この授業の内容をどの程度理解できましたか？	(5)理解できた (4)ほぼ理解できた (3)どちらともいえない (2)あまり理解できなかった (1)理解できなかった
7	この授業の難易度は会計大学院の授業として適切だと思いますか？	(5)適切である (4)ほぼ適切である (3)どちらともいえない (2)やや不適切である (1)不適切である

番号	質問	回答
8	教員のこの授業に対する準備は十分でしたか？	(5)十分だった (4)ほぼ十分だった (3)どちらともいえない (2)やや不十分だった (1)不十分だった
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5)十分だった (4)ほぼ十分だった (3)どちらともいえない (2)やや不十分だった (1)不十分だった
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5)適切である (4)ほぼ適切である (3)どちらともいえない (2)やや不適切である (1)不適切である
11	この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5)適切である (4)ほぼ適切である (3)どちらともいえない (2)やや不適切である (1)不適切である
12	この授業のシラバスは授業を理解する上で役に立ちましたか？	(5)役に立った (4)まあまあ役に立った (3)どちらともいえない (2)あまり役に立たなかった (1)役に立たなかった
13	総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5)評価できる (4)まあまあ評価できる (3)どちらともいえない (2)あまり評価できない (1)評価できない
14	この授業は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5)役立つ (4)まあまあ役に立つ (3)どちらともいえない (2)あまり役に立たない (1)役に立たない
15	この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5)役立つ (4)まあまあ役に立つ (3)どちらともいえない (2)あまり役に立たない (1)役に立たない
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士短答式・論文式 or 日商簿記1級 (3)日商簿記2級 (1) 上記について無し
17	会計大学院に入る前の所属について、適切なものにチェックしてください。	(5)東北大学経済学部 (4) 東北大学の経済学部以外に所属、あるいは他大学に所属 (3) 社会人として勤務 (2)留学生 (1)その他

番号	質問	回答
18	この授業の主な受講方法を選択してください.	(5)対面 (4)オンデマンド (3)リアルタイム (2)その他
19	自由記入欄（授業の感想，担当教員への要望，また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を自由に記入して下さい.）	（自由記述）

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

※今年度のアンケートは Google Form で実施しています。表示形式は異なりますが、設問・選択肢は記載の通りです。

資料2：2023年度前期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	88	33.21%
	公認会計士コース(1年)	106	40.00%
	会計リサーチコース	8	3.02%
	ビジネスアカウンティングコース	44	16.60%
	経済経営学専攻	11	4.15%
	経済学部	8	3.02%
	その他	0	0.00%
	合計	265	100.00%
設問2 この講義にどの くらい参加しま したか.	90%以上	245	92.45%
	89-70%	18	6.79%
	69-50%	1	0.38%
	49-20%	0	0.00%
	20%未満	1	0.38%
	合計	265	100.00%
設問3 この講義の予習 にどのくらいの 時間をかけまし たか.	5時間以上	3	1.13%
	4-5時間	1	0.38%
	3-4時間	5	1.89%
	2-3時間	25	9.43%
	1-2時間	96	36.23%
	1時間未満	135	50.94%
	合計	265	100.00%
設問4 この講義の復習 にどのくらいの 時間をかけまし たか.	5時間以上	5	1.89%
	4-5時間	2	0.75%
	3-4時間	11	4.15%
	2-3時間	34	12.83%
	1-2時間	116	43.77%
	1時間未満	97	36.60%
	合計	265	100.00%
設問5 この講義の宿題 にどのくらいの 時間をかけまし たか.	5時間以上	6	2.26%
	4-5時間	7	2.64%
	3-4時間	12	4.53%
	2-3時間	37	13.96%
	1-2時間	86	32.45%
	1時間未満	117	44.15%
	合計	265	100.00%
設問6 この講義の内容 をどの程度理解 できたと思いま すか.	理解できた	112	42.26%
	ほぼ理解できた	114	43.02%
	どちらともいえない	27	10.19%
	あまり理解できなかった	6	2.26%
	理解できなかった	6	2.26%
	合計	265	100.00%
設問7 この講義の難易 度は会計大学院 の講義として適 切だと思います か.	適切	167	63.02%
	ほぼ適切	71	26.79%
	どちらともいえない	20	7.55%
	やや不適切	2	0.75%
	不適切	5	1.89%
	合計	265	100.00%
設問8 教員のこの講義 に対する準備は 十分でしたか.	十分	204	76.98%
	ほぼ十分	39	14.72%
	どちらともいえない	13	4.91%
	やや不十分	4	1.51%
	不十分	5	1.89%
	合計	265	100.00%

設問9 教員の説明や声量など、教室でのプレゼンテーションは良好でしたか。	十分	200	75.47%
	ほぼ十分	40	15.09%
	どちらともいえない	18	6.79%
	やや不十分	3	1.13%
	不十分	4	1.51%
	合計	265	100.00%
設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	182	68.68%
	ほぼ適切	56	21.13%
	どちらともいえない	16	6.04%
	やや不適切	5	1.89%
	不適切	6	2.26%
	合計	265	100.00%
設問11 この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。	適切	205	77.36%
	ほぼ適切	42	15.85%
	どちらともいえない	13	4.91%
	やや不適切	2	0.75%
	不適切	3	1.13%
	合計	265	100.00%
設問12 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	194	73.21%
	まあまあ役に立った	45	16.98%
	どちらともいえない	19	7.17%
	あまり役に立たなかった	2	0.75%
	役に立たなかった	5	1.89%
	合計	265	100.00%
設問13 総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。	評価できる	198	74.72%
	まあまあ評価できる	42	15.85%
	どちらともいえない	14	5.28%
	あまり評価できない	4	1.51%
	評価できない	7	2.64%
	合計	265	100.00%
設問14 この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。	役立つ	141	53.21%
	まあまあ役立つ	46	17.36%
	どちらともいえない	57	21.51%
	あまり役に立たない	10	3.77%
	役に立たない	11	4.15%
	合計	265	100.00%
設問15 この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。	役立つ	176	66.42%
	まあまあ役立つ	56	21.13%
	どちらともいえない	24	9.06%
	あまり役に立たない	2	0.75%
	役に立たない	7	2.64%
	合計	265	100.00%
設問16 あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	税理士会計科目/公認会計士短答式/日商簿記1級	88	33.21%
	日商簿記2級	116	43.77%
	上記についてなし	61	23.02%
	合計	265	100.00%
設問17 会計大学院に入る前の所属について、適切なものチェックしてください。	東北大学経済学部 に所属	30	11.32%
	東北大学の経済学部以外に所属、あるいは他大学	122	46.04%
	社会人として勤務	35	13.21%
	留学生	65	24.53%
	その他	13	4.91%
	合計	265	100.00%

設問18 この授業の主な 受講方法を選択 してください。	対面	139	52.45%
	オンデマンド	80	30.19%
	リアルタイム	45	16.98%
	その他	1	0.38%
	合計	265	100.00%

「注」 設問の文言は本来のものと若干異なります。

2023 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長  
委員

吉永 裕登  
木村 史彦

会計大学院アンケート実施報告書 2023 年度前期

2023 年 10 月発行

編集・発行：東北大学会計大学院ワークショップ委員会